

# 岡山県感染症週報 2016 年 第 38 週 (9 月 19 日 ~ 9 月 25 日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です

## ◆2016 年 第 38 週 (9/19 ~ 9/25) の感染症発生動向 (届出数)

### ■全数把握感染症の発生状況

- 第 36 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 20 代 女)  
 4 類感染症 日本紅斑熱 1 名 (60 代 女)
- 第 37 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 女)  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O26 : 70 代 女 1 名、O157 : 30 代 女 1 名、O165 : 幼児 男 1 名)  
 5 類感染症 クロイツフェルト・ヤコブ病 1 名 (70 代 男)  
 侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 名 (乳児 男)
- 第 38 週 2 類感染症 結核 1 名 (70 代 男)  
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157 : 幼児 男)  
 4 類感染症 日本紅斑熱 1 名 (80 代 男)

### ■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数 : インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- RS ウイルス感染症は、県全体で 46 名 (定点あたり 0.70 → 0.85 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。
- A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で 30 名 (定点あたり 1.04 → 0.56 人) の報告があり、前週より減少しました。

### 【第 39 週 速報】

- 倉敷市内の小学校 1 校で、流行性耳下腺炎による学級閉鎖がありました。(9 月 27 日)
- 腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (O 群不明 : 40 代 女 1 名、O157 : 50 代 女 1 名、O145 : 60 代 女 1 名) の発生がありました。(9 月 27 日 ~ 29 日)

1. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2016 年第 38 週まで (～9/25) に 40 名が報告されています。岡山県では「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
2. [日本紅斑熱](#)は、第 36 週に 1 名、第 38 週に 1 名の報告があり、2016 年第 38 週まで (～9/25) の報告数は 3 名となりました。この感染症は、病原体 (日本紅斑熱リケッチア) を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は 2～8 日程度で、発熱、発しん、刺し口が 3 大特徴です。ダニが媒介する感染症は、日本紅斑熱の他に、重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、つつが虫病などがあります。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[「日本紅斑熱」に注意しましょう。](#)』及び『[ダニが媒介する感染症に注意しましょう。](#)』をご覧下さい。
3. [梅毒](#)は、2016 年第 38 週まで (～9/25) に 27 名が報告されています。過去 10 年間で最も多かった 2015 年の年間報告数 (25 名) を上まわりました。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
4. [RS ウイルス感染症](#)は、県全体で 46 名 (定点あたり 0.70 → 0.85 人) の報告があり、前週よりわずかに増加しました。過去 10 年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では、美作地域 (2.67 人)、倉敷市 (1.18 人)、岡山市 (0.86 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など、詳しくは、「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
5. [A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎](#)は、県全体で 30 名 (定点あたり 1.04 → 0.56 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市 (1.64 人)、美作地域 (1.33 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。就学前から学童期の小児に多い感染症で、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしばおう吐を伴います。例年、冬季に患者が多く報告されますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

## 流行の推移と発生状況

| 疾病名            | 推移 | 発生状況                                                             | 疾病名           | 推移 | 発生状況 |
|----------------|----|------------------------------------------------------------------|---------------|----|------|
| インフルエンザ        |    | ★★★★                                                             | RSウイルス感染症     |    | ★★★  |
| 咽頭結膜熱          |    | ★                                                                | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 |    | ★    |
| 感染性胃腸炎         |    | ★★★                                                              | 水痘            |    | ★    |
| 手足口病           |    | ★                                                                | 伝染性紅斑         |    | ★    |
| 突発性発疹          |    | ★                                                                | 百日咳           |    | ★★   |
| ヘルパンギーナ        |    | ★                                                                | 流行性耳下腺炎       |    | ★★   |
| 急性出血性結膜炎       |    |                                                                  | 流行性角結膜炎       |    | ★    |
| 細菌性髄膜炎         |    |                                                                  | 無菌性髄膜炎        |    |      |
| マイコプラズマ肺炎      |    |                                                                  | クラミジア肺炎       |    |      |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) |    | * 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。 |               |    |      |

【記号の説明】 前週からの推移： ：大幅な増加 ：増加 ：ほぼ増減なし ：大幅な減少 ：減少  
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

## ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

これからの季節、レジャーや紅葉狩りなど、野外で活動する機会が増えます

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋(3～11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

### 【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディート成分を含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤を子供へ使用する際は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

### 【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎マダニに咬まれていない場合は、容易に取り除くことができるので、すぐに取り除いてください。取り除いたマダニは、保存しておき、その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。
- ◎マダニに咬まれている場合は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。

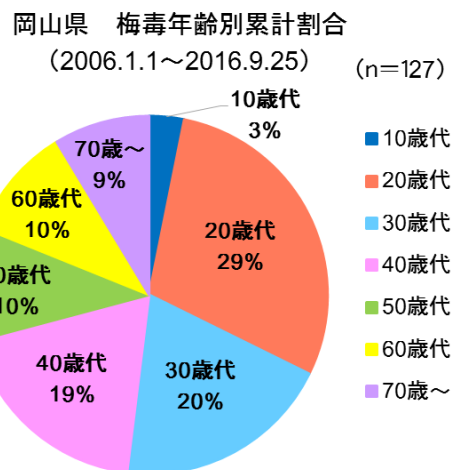
### 【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。

[重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)  
[マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

## 梅毒

2016 年第 38 週まで（～9/25）の岡山県の報告数は 27 名となり、過去 10 年間で最も多かった 2015 年の年間報告数（25 名）を上まわりました。現在の届出制度が開始された 1999 年からは減少傾向にあり、2006 年～2013 年には年間 3～9 名と 1 桁台で推移していましたが、2014 年以降、急激に増加しています。男女別では、患者報告数の約 8 割が男性で、女性は男性に比べて少ないものの、2015 年から増加に転じています。特に 2016 年第 38 週まで（～9/25）の女性報告数が、すでに 7 名となっており、2015 年の年間報告数（3 名）から倍増しています。年齢別では、20 歳代 29%、30 歳代 20%、40 歳代 19%の順で高くなっており、男女ともに若い世代で多くなっています。



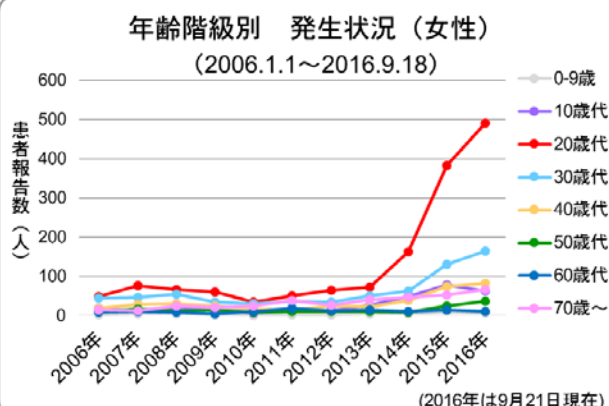
全国 梅毒発生状況  
(2006.1.1～2016.9.18)

患者報告数(人)

■ 男 ■ 女

| 年     | 男    | 女   | 合計   |
|-------|------|-----|------|
| 2006年 | 400  | 100 | 500  |
| 2007年 | 550  | 150 | 700  |
| 2008年 | 600  | 200 | 800  |
| 2009年 | 550  | 150 | 700  |
| 2010年 | 500  | 100 | 600  |
| 2011年 | 650  | 200 | 850  |
| 2012年 | 700  | 200 | 900  |
| 2013年 | 1000 | 250 | 1250 |
| 2014年 | 1250 | 400 | 1650 |
| 2015年 | 1900 | 800 | 2700 |
| 2016年 | 2200 | 900 | 3100 |

(2016年は9月21日現在)



## 【梅毒とは】

梅毒は、主に感染している人との性器、口、肛門などの粘膜を介した性行為によって起こる感染症です。原因となる病原体は、梅毒トレポネーマというスピロヘータ（細菌の一種）で、病名は症状にみられる赤い発しんが楊梅（ヤマモモ）に似ていることに由来します。症状が出たり消えたりするⅠ期、Ⅱ期（症状参照）は、排菌していても自覚症状がないため、感染に気づきにくいと言われます。検査や治療が遅れると、病気が進行し、パートナーへうつす可能性があります。また、AIDS（後天性免疫不全症候群）など他の性感染症にも感染しやすくなります。

感染の有無は血液検査で分かります（感染初期においては、感染部位からの直接病原体の検出による診断が可能）。そして、早期に治療すれば完治します。しかし、一度感染して抗体が体内にあっても終生免疫は得られないため、感染が繰り返されることがあり、再感染の予防が必要です。

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染することがあり、先天梅毒（症状参照）の原因になります。岡山県では妊婦検診の際、梅毒の無料の血液検査を実施して母子の健康状態の確認を行っています。

## 【症状】

感染後、約 3～6 週間程度の潜伏期間を経て、経時的に様々な臨床症状が出現します。その間、症状が軽快する時期があるため、治療の遅れにつながる場合があります。感染症法における感染後の時間経過による特徴は次のとおりです。

### 第Ⅰ期（感染部位の病変）：感染後約 3 週間

感染して約 3 週間後、感染がおきた部位（主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等）にしこりができることがあります（初期硬結）。また股の付け根の部分（鼠径部）のリンパ節が腫れることもあります。痛みがないことも多く、治療をしなくても症状は自然に軽快します。しかし、体内から病原体がいなくなったわけではなく、他の人にうつす可能性もあります。感染した可能性がある場合には、この時期に梅毒の検査を受けることが重要です。

### 第Ⅱ期（病原体が血液によって全身に移行）：感染後数か月

治療をしないで 3 か月以上を経過すると、病原体が血液によって全身に運ばれ、手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発しんが出ることがあります。小さなバラの花に似ていることから「バラ疹（ばらしん）」とよばれています。発しんは治療をしなくても数週間以内に消える場合があります。また、再発を繰り返すこともあります。しかし、抗菌薬で治療しない限り、梅毒トレポネーマは体内に残っており、梅毒が治ったわけではありません。

### 晩期顕症梅毒：感染後数年

感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳など複数の臓器に病変が生じ（神経梅毒）、場合によっては死に至ることもあります。現在では、比較的早期から治療を開始することが多く、抗菌薬が有効であることなどから、晩期顕症梅毒に進行することはほとんどありません。

### 先天梅毒

梅毒に感染している母体から胎盤を通じて胎児に伝播される多臓器感染症です。症状の出現時期によって早期（生後 2 年以内）と晩期（生後 2 年以降～20 年）に分類され、感染乳児の 2/3 は、出生時は無症状で身体所見は正常とされています。早期先天梅毒では、生後まもなく皮膚病変に加え、鼻閉、肝脾腫などの症状が認められます。晩期先天梅毒では、乳幼児期は症状を示さずに経過し、学童期以降に Hutchinson 3 徴候（実質性角膜炎、内耳性難聴、Hutchinson 歯）などの症状がみられます。

## 【治療・予防】

ペニシリン系の抗菌薬が有効です（日本ではペニシリン系抗菌薬による治療は内服のみに限られています）。なお、内服期間は病期によって異なりますが、医師が治療を終了とするまでは、処方された薬を確実に飲むことが大切です。予防は、感染者、特に感染力が強い第Ⅰ期、第Ⅱ期の感染者との性行為を避けることが基本です。コンドームの適切な使用により感染の可能性は低くなりますが、完全に予防できるとは過信せず、皮膚や粘膜に異常があれば、早めに医療機関を受診しましょう。また、梅毒の感染が分かった場合は、周囲で感染の可能性がある方（パートナー）も検査を行い、必要に応じて治療をすることが重要です。

梅毒の検査は、医療機関（有料、要予約）又は県内の保健所・支所（無料、匿名、要予約）で受けることができます。詳しくは、医療機関又は保健所・支所におたずねください。

[梅毒に関するQ & A（厚生労働省）](#)

[梅毒とは（国立感染症研究所）](#)

[平成 28 年度 保健所における HIV 抗体検査・性感染症検査・肝炎検査日時](#)

[平成 28 年度 エイズ治療拠点病院における HIV\(エイズ\)検査実施日時](#)

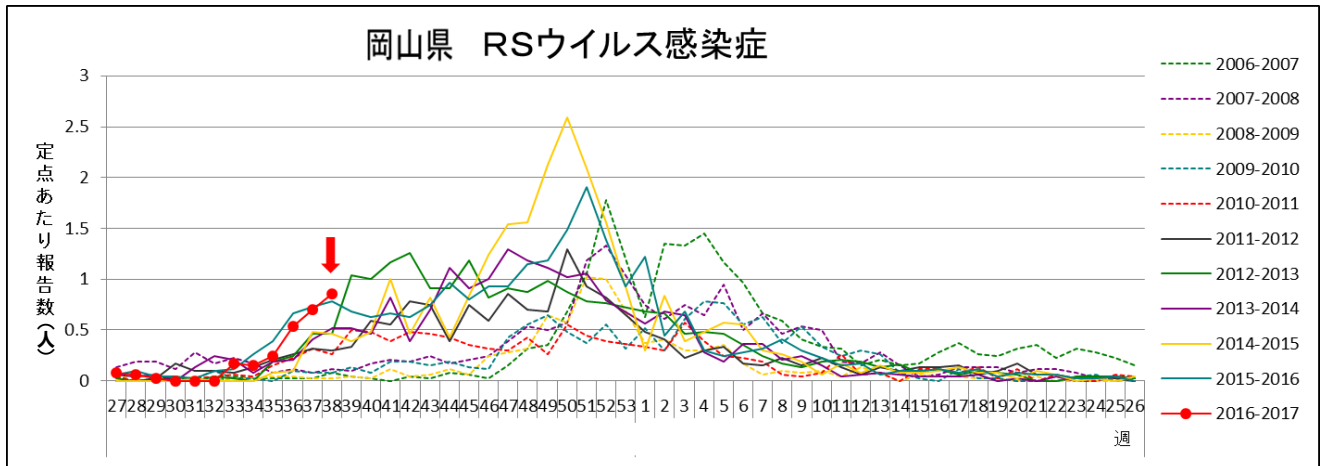


## 今週の注目感染症（２）

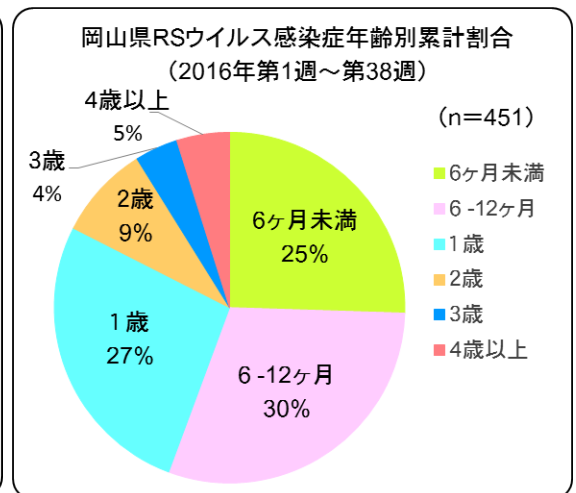
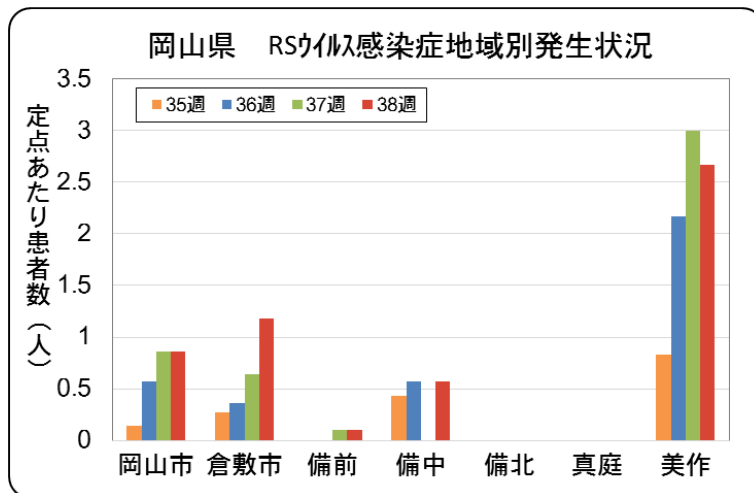
### RSウイルス感染症

#### 【岡山県の発生状況】

RSウイルス感染症は、県全体で46名（定点あたり0.70→0.85人）の報告があり、4週連続で増加しました。過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では美作地域（2.67人）、倉敷市（1.18人）、岡山市（0.86人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備北地域、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。2016年第38週までの年齢別累計割合では、1歳未満の乳児が全体の55%を占めています。



※RSウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとしてグラフを作成しています。

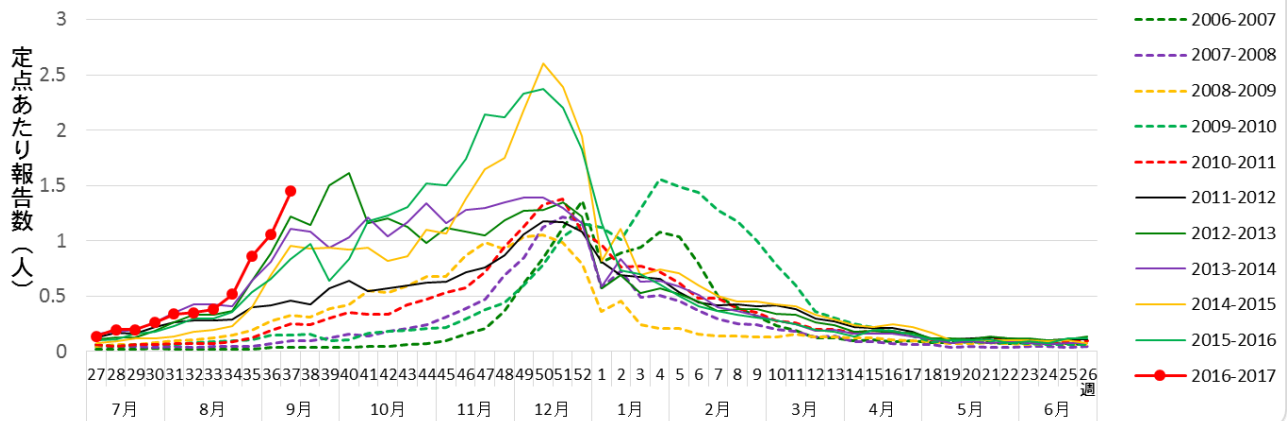


この感染症は、乳児が感染すると重症化する恐れがありますが、症状が悪化しても平熱か38℃以下のことが多いため、お子さんの様子に注意することが必要です。熱が下がっても症状が改善せず、ゼーゼーとのどが鳴るなどの症状があるときは、早めに医療機関を受診してください。今後、さらに患者数が増加する恐れがありますので、ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、乳児がいる家庭では、特に感染予防に努めてください。

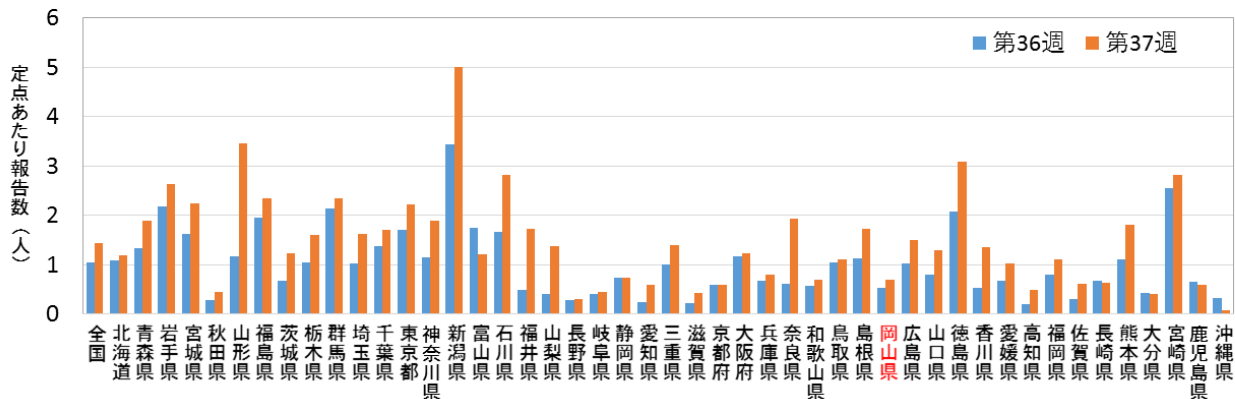
#### 【全国の発生状況】

全国の第37週の発生状況は、定点あたり報告数が1.45人であり、第29週（7/18～7/24）以降、増加傾向にあります。過去10年間の同時期と比較して多い状態で推移しています。都道府県別では、新潟県（5.00人）、山形県（3.47人）、徳島県（3.09人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。東日本を中心に多くの患者が報告されていますが、近隣県でも患者が増加しています。

## 全国 RSウイルス感染症発生状況



## RSウイルス感染症 都道府県別 発生状況



[IDWR 速報データ 2016 年第 37 週（国立感染症研究所）](#)

### 【RSウイルス感染症とは】

RSウイルス感染症は、RSウイルスによる急性呼吸器感染症です。この感染症は、例年冬季に流行がみられていましたが、近年では夏頃から患者が報告されるようになりました。感染後 2～8 日の潜伏期間を経て、発熱、鼻汁、咳などの風邪様症状が現れます。約 7 割の乳児が、1 歳になるまでに RS ウイルスに感染し、そのうちの約 3 割が肺炎や細気管支炎といった重篤な症状を引き起こします。母体からの移行抗体では感染を防ぐことができないため、生後 6 ヶ月以内に RS ウイルスに感染した場合は、重症化し入院を必要とすることもあります。年齢を問わず、生涯にわたり感染と発症を繰り返しますが、通常は年齢が上がるにつれて、重症化しにくくなります。

### 【感染経路】

感染している人の咳やくしゃみを浴びて、ウイルスを吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品を触ったり舐めたりすることなどによる間接的な接触感染で感染します。

### 【乳児への感染予防】

一定以上の年齢の人が RS ウイルスに感染した場合は、軽症であることが多いため、RS ウイルスに感染していることに気づかずに、乳児にうつしてしまうことがあります。そのため、咳などの呼吸器症状がある人は、可能な限り 1 歳未満の乳児との接触を避けることが感染拡大の予防に繋がります。風邪をひいたと思ったらマスクをする、鼻をかんだ後はしっかりと手を洗う、乳児が使うおもちゃなどは消毒用アルコールで拭くなど、乳児への感染予防に努めましょう。

### 【治療】

特効薬はないため、症状に応じた対症療法を行います。

[RSウイルス感染症とは（国立感染症研究所）](#)

[RSウイルス感染症に関する Q&A（厚生労働省）](#)

## 保健所別報告患者数 2016年 38週(定点把握)

( 2016/09/19～2016/09/25 )

2016年9月29日

| 疾病名            | 全県  |      | 岡山市 |      | 倉敷市 |      | 備前  |      | 備中  |      | 備北  |      | 真庭  |      | 美作  |      |
|----------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
|                | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  |
| インフルエンザ        | 5   | 0.06 | —   | —    | 2   | 0.13 | —   | —    | —   | —    | 2   | 0.33 | 1   | 0.33 | —   | —    |
| RSウイルス感染症      | 46  | 0.85 | 12  | 0.86 | 13  | 1.18 | 1   | 0.10 | 4   | 0.57 | —   | —    | —   | —    | 16  | 2.67 |
| 咽頭結膜熱          | 10  | 0.19 | 5   | 0.36 | —   | —    | 1   | 0.10 | 1   | 0.14 | 1   | 0.25 | —   | —    | 2   | 0.33 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎  | 30  | 0.56 | 1   | 0.07 | 18  | 1.64 | 2   | 0.20 | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.50 | 8   | 1.33 |
| 感染性胃腸炎         | 277 | 5.13 | 73  | 5.21 | 65  | 5.91 | 44  | 4.40 | 15  | 2.14 | 9   | 2.25 | 12  | 6.00 | 59  | 9.83 |
| 水痘             | 14  | 0.26 | 4   | 0.29 | 7   | 0.64 | —   | —    | 1   | 0.14 | 2   | 0.50 | —   | —    | —   | —    |
| 手足口病           | 16  | 0.30 | 11  | 0.79 | 2   | 0.18 | —   | —    | 2   | 0.29 | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.17 |
| 伝染性紅斑          | 1   | 0.02 | 1   | 0.07 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 突発性発疹          | 12  | 0.22 | 5   | 0.36 | 5   | 0.45 | 1   | 0.10 | 1   | 0.14 | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 百日咳            | 1   | 0.02 | 1   | 0.07 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| ヘルパンギーナ        | 5   | 0.09 | 1   | 0.07 | 1   | 0.09 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.50 | 2   | 0.33 |
| 流行性耳下腺炎        | 45  | 0.83 | 15  | 1.07 | 18  | 1.64 | 11  | 1.10 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.17 |
| 急性出血性結膜炎       | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 流行性角結膜炎        | 5   | 0.42 | 1   | 0.20 | 2   | 0.50 | 1   | 1.00 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | 1   | 1.00 |
| 細菌性髄膜炎         | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 無菌性髄膜炎         | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| マイコプラズマ肺炎      | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| クラミジア肺炎        | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |

( - : 0 or 0.00 ) ( 空白 : 定点なし )

保健所別報告患者数 2016年 38週(発生レベル設定疾患)

( 2016/09/19～2016/09/25 )

2016年9月29日

| 疾病名           | 全県  |      | 岡山市 |      | 倉敷市 |      | 備前  |      | 備中  |      | 備北  |      | 真庭  |      | 美作  |      |
|---------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|
|               | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  | 報告数 | 定点当  |
| インフルエンザ       | 5   | 0.06 | —   | —    | 2   | 0.13 | —   | —    | —   | —    | 2   | 0.33 | 1   | 0.33 | —   | —    |
| 咽頭結膜熱         | 10  | 0.19 | 5   | 0.36 | —   | —    | 1   | 0.10 | 1   | 0.14 | 1   | 0.25 | —   | —    | 2   | 0.33 |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 30  | 0.56 | 1   | 0.07 | 18  | 1.64 | 2   | 0.20 | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.50 | 8   | 1.33 |
| 感染性胃腸炎        | 277 | 5.13 | 73  | 5.21 | 65  | 5.91 | 44  | 4.40 | 15  | 2.14 | 9   | 2.25 | 12  | 6.00 | 59  | 9.83 |
| 水痘            | 14  | 0.26 | 4   | 0.29 | 7   | 0.64 | —   | —    | 1   | 0.14 | 2   | 0.50 | —   | —    | —   | —    |
| 手足口病          | 16  | 0.30 | 11  | 0.79 | 2   | 0.18 | —   | —    | 2   | 0.29 | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.17 |
| 伝染性紅斑         | 1   | 0.02 | 1   | 0.07 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 百日咳           | 1   | 0.02 | 1   | 0.07 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| ヘルパンギーナ       | 5   | 0.09 | 1   | 0.07 | 1   | 0.09 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.50 | 2   | 0.33 |
| 流行性耳下腺炎       | 45  | 0.83 | 15  | 1.07 | 18  | 1.64 | 11  | 1.10 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | 1   | 0.17 |
| 急性出血性結膜炎      | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    | —   | —    |
| 流行性角結膜炎       | 5   | 0.42 | 1   | 0.20 | 2   | 0.50 | 1   | 1.00 | —   | —    | —   | —    | —   | —    | 1   | 1.00 |

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。



感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 ( 2016年 第38週 2016/09/19～2016/09/25 )

| 疾病名     | 合計 | -6ヶ月-12ヶ月 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10-14 | 15-19 | 20-29 | 30-39 | 40-49 | 50-59 | 60-69 | 70-79 | 80～ |
|---------|----|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| インフルエンザ | 5  | -         | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -     | -     | -     | -     | 1     | 1     | 1     | 2     | -   |

| 疾病名           | 合計  | -6ヶ月 | -12ヶ月 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10-14 | 15-19 | 20～ |
|---------------|-----|------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-----|
| RSウイルス感染症     | 46  | 14   | 12    | 10 | 5  | 3  | 2  | －  | －  | －  | －  | －  | －     | －     | －   |
| 咽頭結膜熱         | 10  | －    | 1     | 4  | 1  | －  | 1  | 2  | －  | 1  | －  | －  | －     | －     | －   |
| A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 30  | －    | 1     | 2  | 2  | 2  | 2  | 2  | 4  | 2  | 5  | 2  | 4     | －     | 2   |
| 感染性胃腸炎        | 277 | 7    | 32    | 53 | 26 | 34 | 23 | 15 | 11 | 11 | 8  | 9  | 16    | 8     | 24  |
| 水痘            | 14  | －    | －     | 3  | 2  | 3  | 3  | －  | 1  | －  | 1  | －  | 1     | －     | －   |
| 手足口病          | 16  | 1    | 2     | 6  | 3  | 2  | 1  | －  | －  | －  | －  | －  | －     | －     | 1   |
| 伝染性紅斑         | 1   | －    | －     | －  | －  | －  | 1  | －  | －  | －  | －  | －  | －     | －     | －   |
| 突発性発疹         | 12  | －    | 5     | 6  | －  | 1  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －     | －     | －   |
| 百日咳           | 1   | －    | －     | －  | －  | 1  | －  | －  | －  | －  | －  | －  | －     | －     | －   |
| ヘルパンギーナ       | 5   | －    | －     | 2  | 1  | －  | －  | 1  | －  | －  | 1  | －  | －     | －     | －   |
| 流行性耳下腺炎       | 45  | －    | 2     | 4  | －  | 5  | 9  | 8  | 5  | 2  | －  | 2  | 6     | －     | 2   |

| 疾病名      | 合計 | -6ヶ月-12ヶ月 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10-14 | 15-19 | 20-29 | 30-39 | 40-49 | 50-59 | 60-69 | 70～ |
|----------|----|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 急性出血性結膜炎 | -  | -         | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -   |
| 流行性角結膜炎  | 5  | -         | -  | -  | 1  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -     | -     | 2     | -     | -     | 2     | -     | -   |

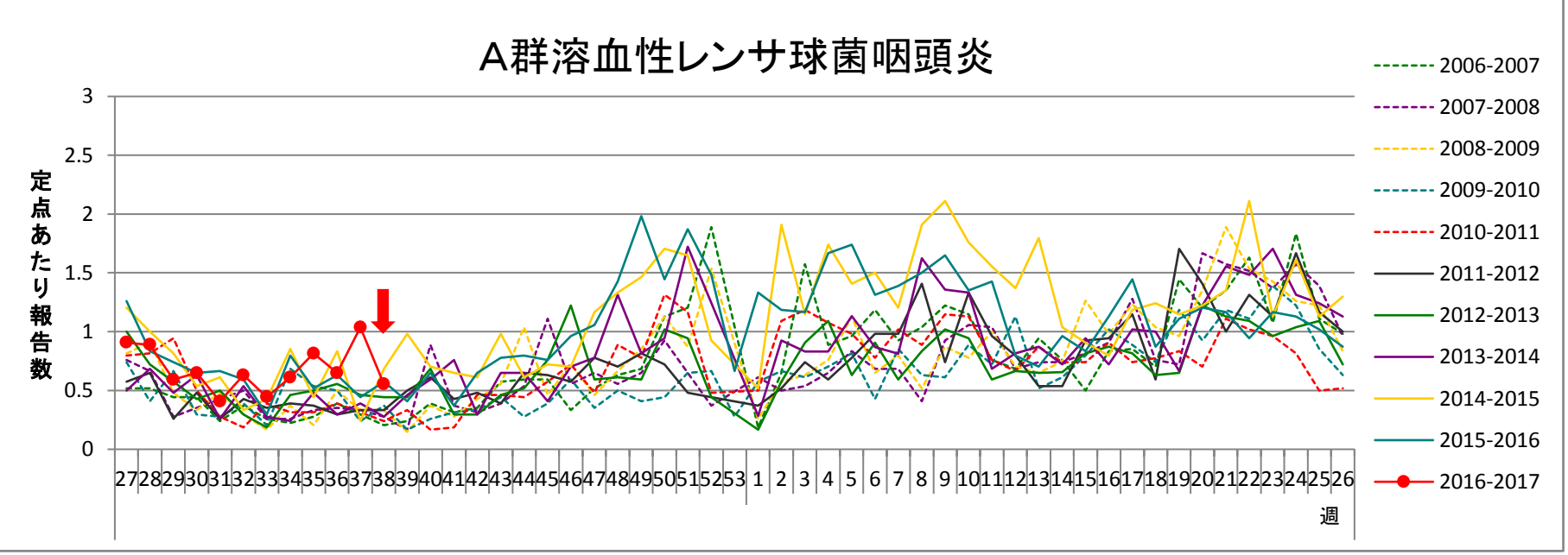
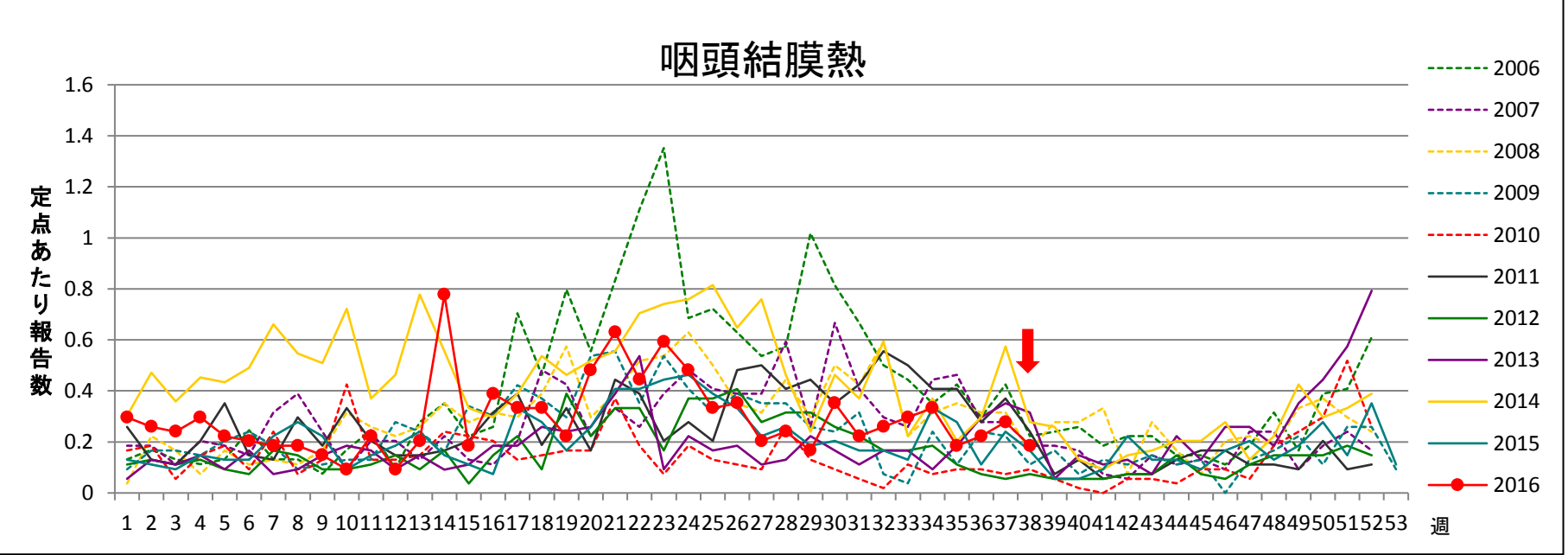
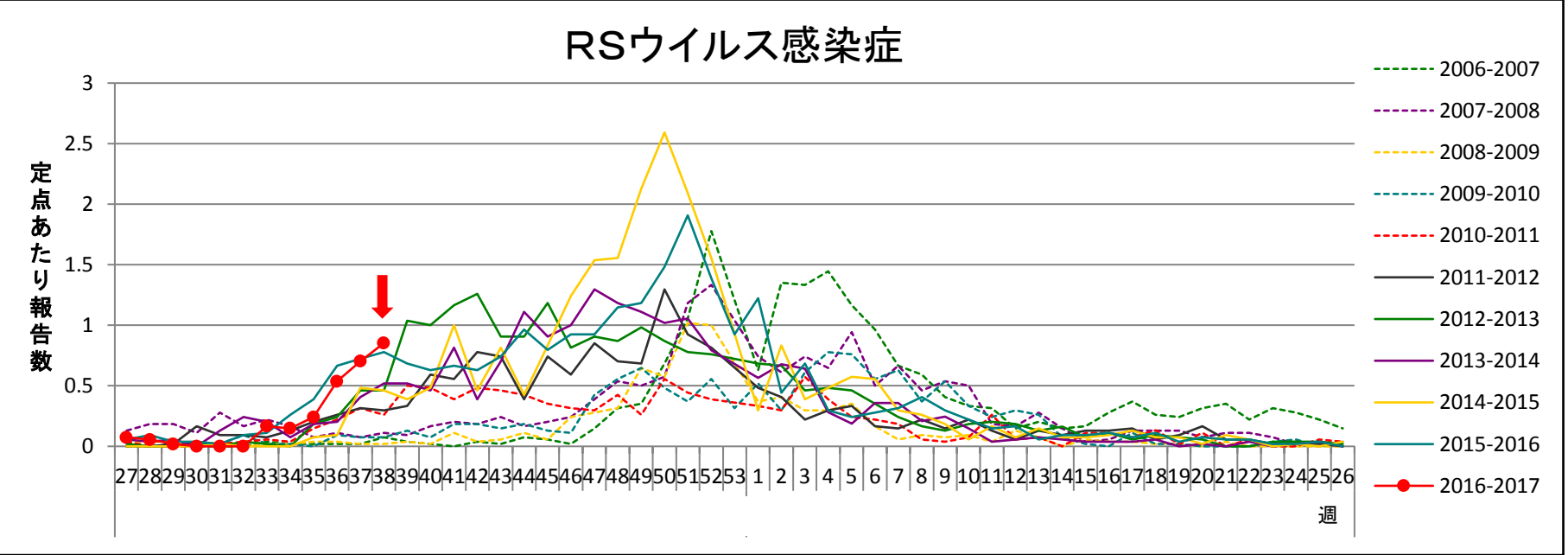
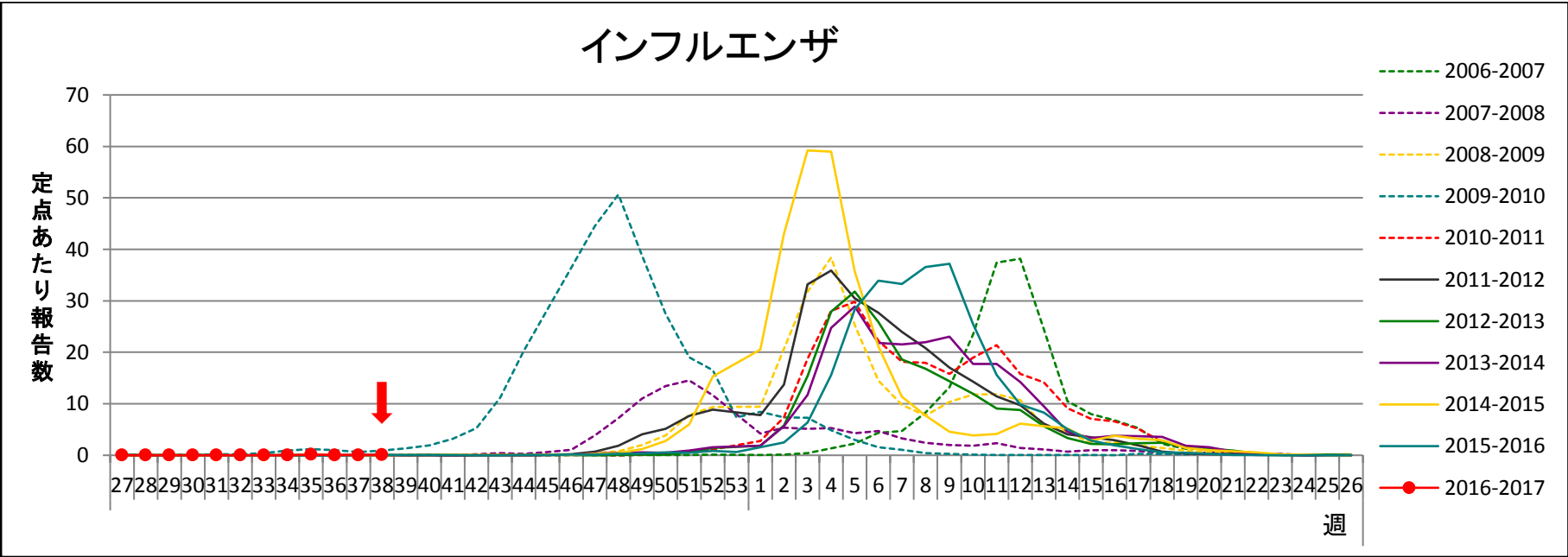
| 疾病名            | 合計 | 0歳 | 1-4 | 5-9 | 10-14 | 15-19 | 20-24 | 25-29 | 30-34 | 35-39 | 40-44 | 45-49 | 50-54 | 55-59 | 60-64 | 65-69 | 70～ |
|----------------|----|----|-----|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| 細菌性髄膜炎         | -  | -  | -   | -   | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -   |
| 無菌性髄膜炎         | -  | -  | -   | -   | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -   |
| マイコプラズマ肺炎      | -  | -  | -   | -   | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -   |
| クラミジア肺炎        | -  | -  | -   | -   | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -   |
| 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | -  | -  | -   | -   | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -     | -   |

( - : 0 )

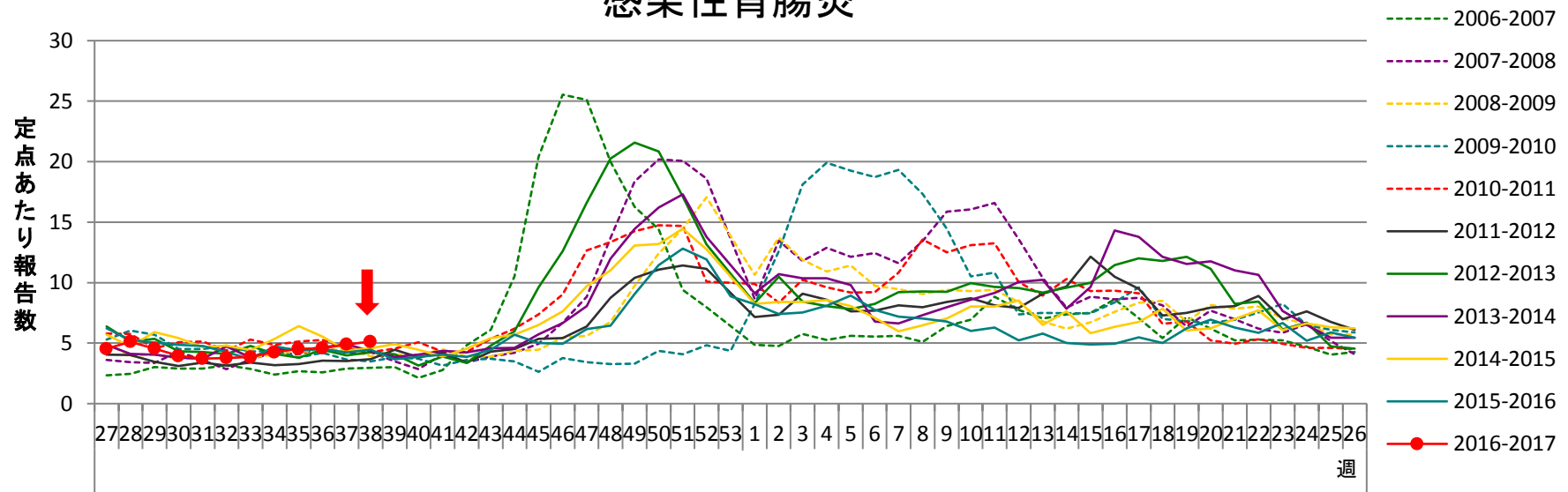
## 全数把握 感染症患者発生状況

2016 年 38 週

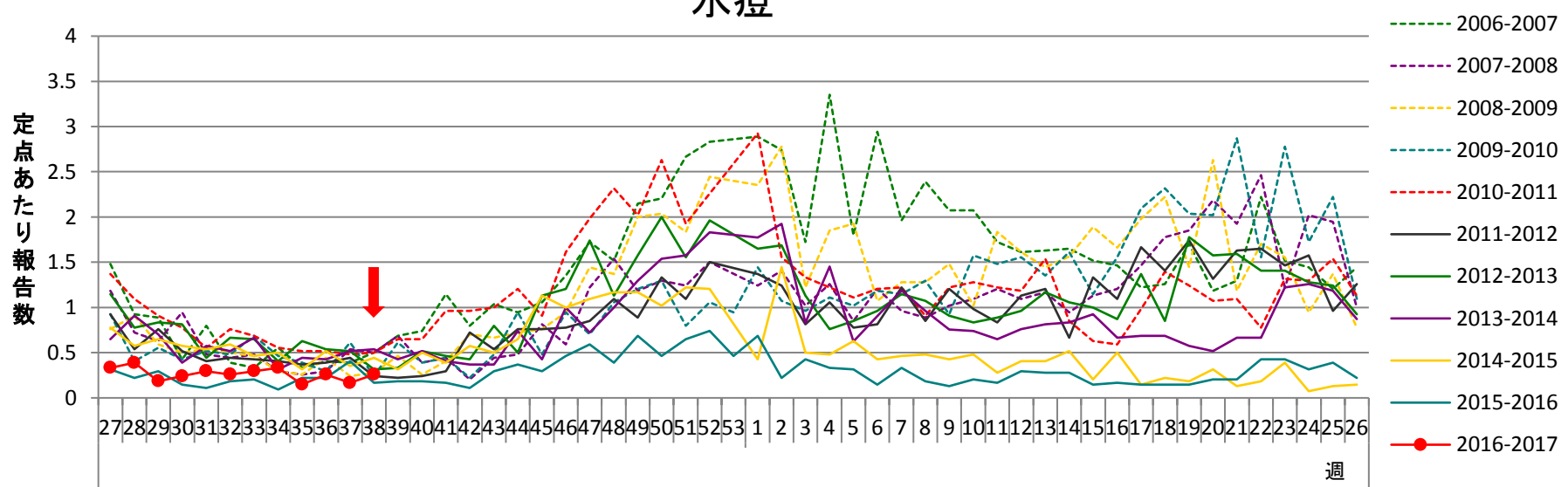
| 分類 | 疾病名             | 2016 |    | 2015 | 疾病名         | 2016 |     | 2015 | 疾病名                | 2016 |    | 2015 |
|----|-----------------|------|----|------|-------------|------|-----|------|--------------------|------|----|------|
|    |                 | 今週   | 累計 | 昨年   |             | 今週   | 累計  | 昨年   |                    | 今週   | 累計 | 昨年   |
| 一類 | エボラ出血熱          | －    | －  | －    | クリミア・コンゴ出血熱 | －    | －   | －    | 痘そう                | －    | －  | －    |
|    | 南米出血熱           | －    | －  | －    | ペスト         | －    | －   | －    | マールブルグ病            | －    | －  | －    |
|    | ラッサ熱            | －    | －  | －    |             | －    | －   | －    |                    | －    | －  | －    |
| 二類 | 急性灰白髄炎          | －    | －  | －    | 結核          | 1    | 219 | 374  | ジフテリア              | －    | －  | －    |
|    | 重症急性呼吸器症候群      | －    | －  | －    | 中東呼吸器症候群    | －    | －   | －    | 鳥インフルエンザ(H5N1)     | －    | －  | －    |
|    | 鳥インフルエンザ(H7N9)  | －    | －  | －    |             | －    | －   | －    |                    | －    | －  | －    |
| 三類 | コレラ             | －    | －  | －    | 細菌性赤痢       | －    | －   | 2    | 腸管出血性大腸菌感染症        | 1    | 40 | 63   |
|    | 腸チフス            | －    | －  | －    | パラチフス       | －    | －   | －    |                    | －    | －  | －    |
| 四類 | E型肝炎            | －    | 2  | 3    | ウエストナイル熱    | －    | －   | －    | A型肝炎               | －    | 2  | 9    |
|    | エキノкокクス症       | －    | －  | －    | 黄熱          | －    | －   | －    | オウム病               | －    | －  | 1    |
|    | オムスク出血熱         | －    | －  | －    | 回帰熱         | －    | －   | －    | キャサヌル森林病           | －    | －  | －    |
|    | Q熱              | －    | －  | －    | 狂犬病         | －    | －   | －    | コクシジオイデス症          | －    | －  | －    |
|    | サル痘             | －    | －  | －    | ジカウイルス感染症   | －    | －   | －    | 重症熱性血小板減少症候群       | －    | 1  | －    |
|    | 腎症候性出血熱         | －    | －  | －    | 西部ウマ脳炎      | －    | －   | －    | ダニ媒介脳炎             | －    | －  | －    |
|    | 炭疽              | －    | －  | －    | チクングニア熱     | －    | －   | －    | つつが虫病              | －    | 1  | 1    |
|    | デング熱            | －    | 1  | 2    | 東部ウマ脳炎      | －    | －   | －    | 鳥インフルエンザ           | －    | －  | －    |
|    | ニパウイルス感染症       | －    | －  | －    | 日本脳炎        | －    | －   | －    | 日本紅斑熱              | 1    | 3  | 3    |
|    | ハンタウイルス肺症候群     | －    | －  | －    | Bウイルス病      | －    | －   | －    | 鼻疽                 | －    | －  | －    |
|    | ブルセラ症           | －    | －  | －    | ベネズエラウマ脳炎   | －    | －   | －    | ヘンドラウイルス感染症        | －    | －  | －    |
|    | 発しんチフス          | －    | －  | －    | ボツリヌス症      | －    | －   | －    | マラリア               | －    | －  | 2    |
|    | 野兔病             | －    | －  | －    | ライム病        | －    | －   | －    | リッサウイルス感染症         | －    | －  | －    |
|    | リフトバレー熱         | －    | －  | －    | 類鼻疽         | －    | －   | －    | レジオネラ症             | －    | 20 | 28   |
|    | レプトスピラ症         | －    | －  | －    | ロッキー山紅斑熱    | －    | －   | －    |                    | －    | －  | －    |
| 五類 | アメーバ赤痢          | －    | 17 | 17   | ウイルス性肝炎*3   | －    | 3   | 9    | カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染  | －    | 17 | 34   |
|    | 急性脳炎*4          | －    | 8  | 14   | クリプトスポリジウム症 | －    | －   | 1    | クロイツフェルト・ヤコブ病      | －    | 3  | 2    |
|    | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症  | －    | 6  | 2    | 後天性免疫不全症候群  | －    | 8   | 21   | ジアルジア症             | －    | 1  | 4    |
|    | 侵襲性インフルエンザ菌感染症  | －    | 6  | 2    | 侵襲性髄膜炎菌感染症  | －    | －   | －    | 侵襲性肺炎球菌感染症         | －    | 22 | 35   |
|    | 水痘(入院例に限る。)     | －    | 1  | 6    | 先天性風しん症候群   | －    | －   | －    | 梅毒                 | －    | 27 | 25   |
|    | 播種性クリプトкокクス症   | －    | 1  | 1    | 破傷風         | －    | 2   | －    | バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染 | －    | －  | －    |
|    | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 | －    | 1  | －    | 風しん         | －    | －   | －    | 麻しん                | －    | －  | －    |
|    | 薬剤耐性アシネトバクター感染症 | －    | －  | －    |             | －    | －   | －    |                    | －    | －  | －    |



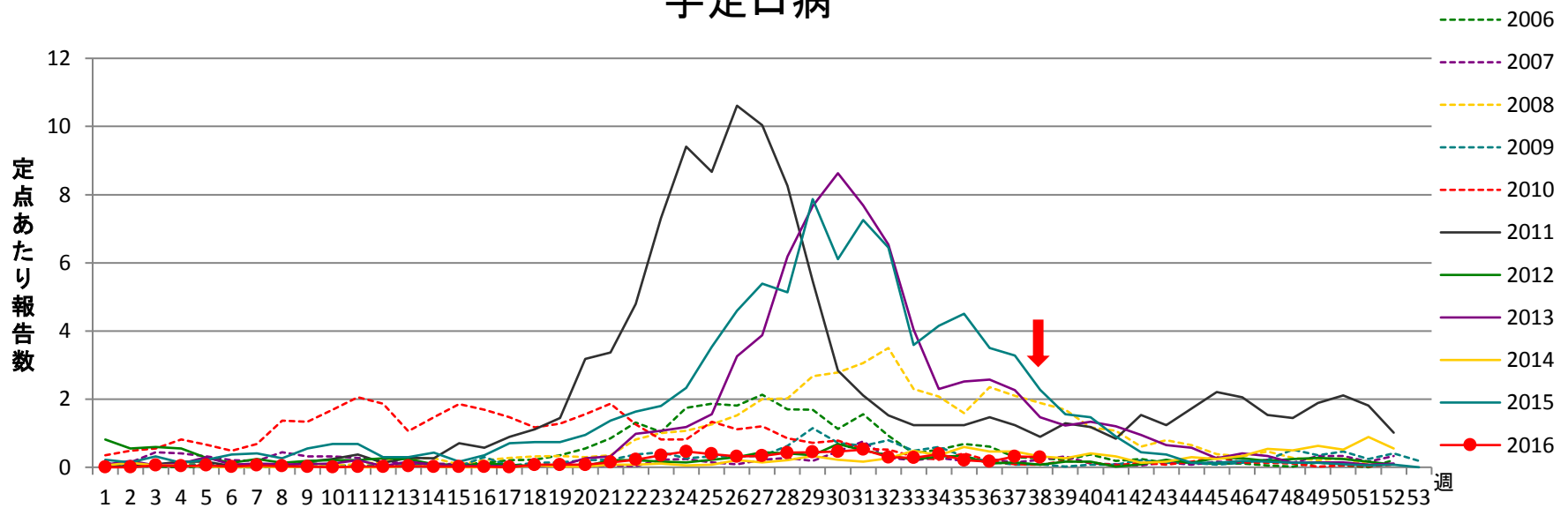
## 感染性胃腸炎



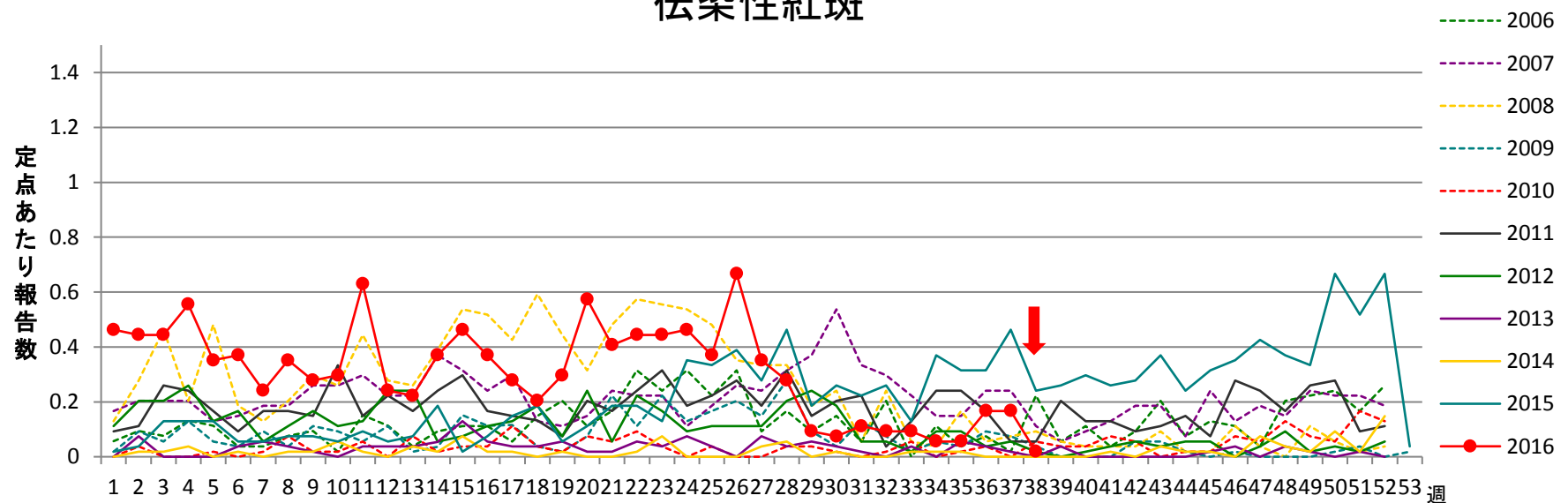
## 水痘



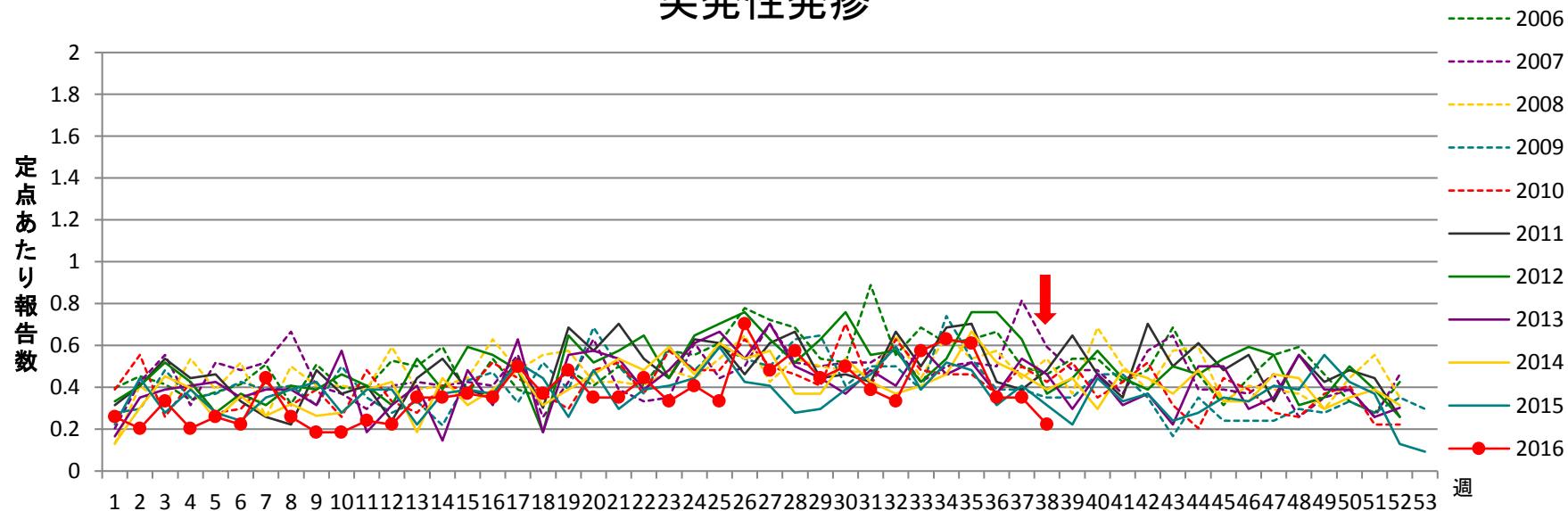
## 手足口病



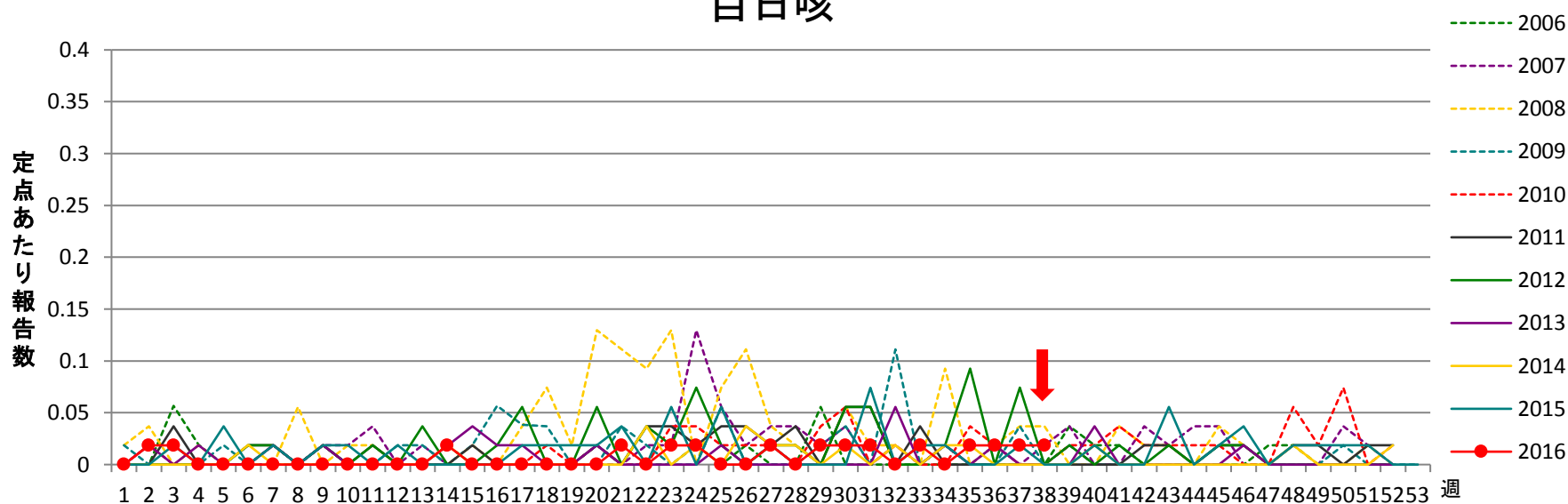
## 伝染性紅斑



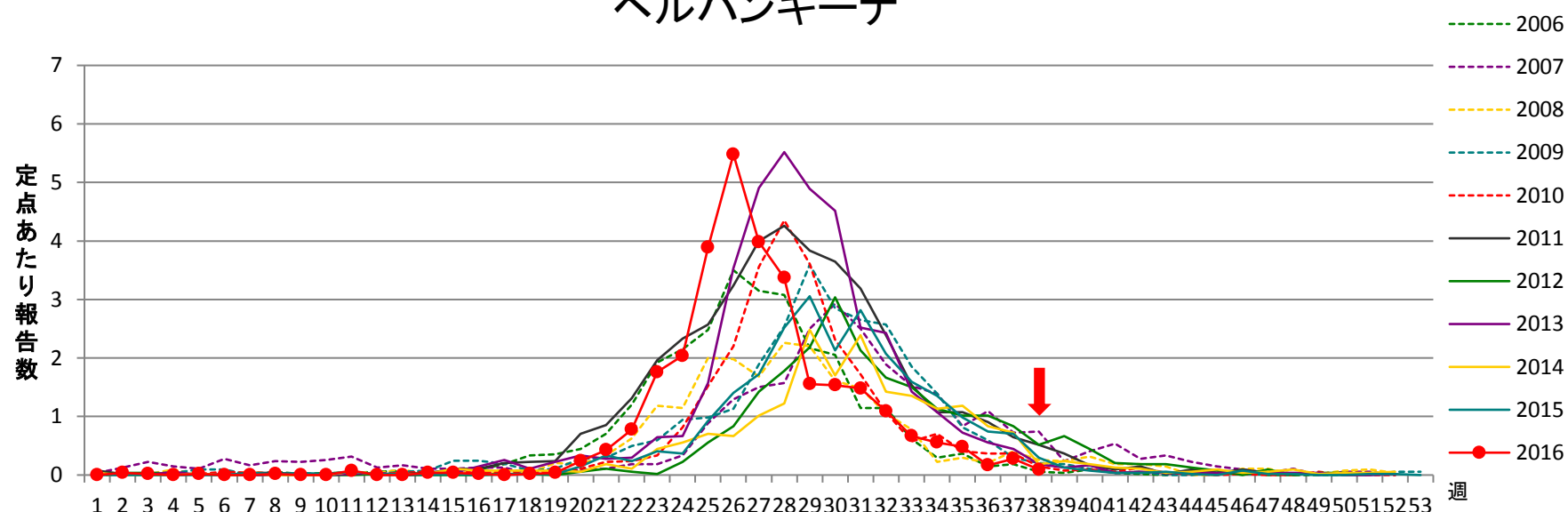
## 突発性発疹



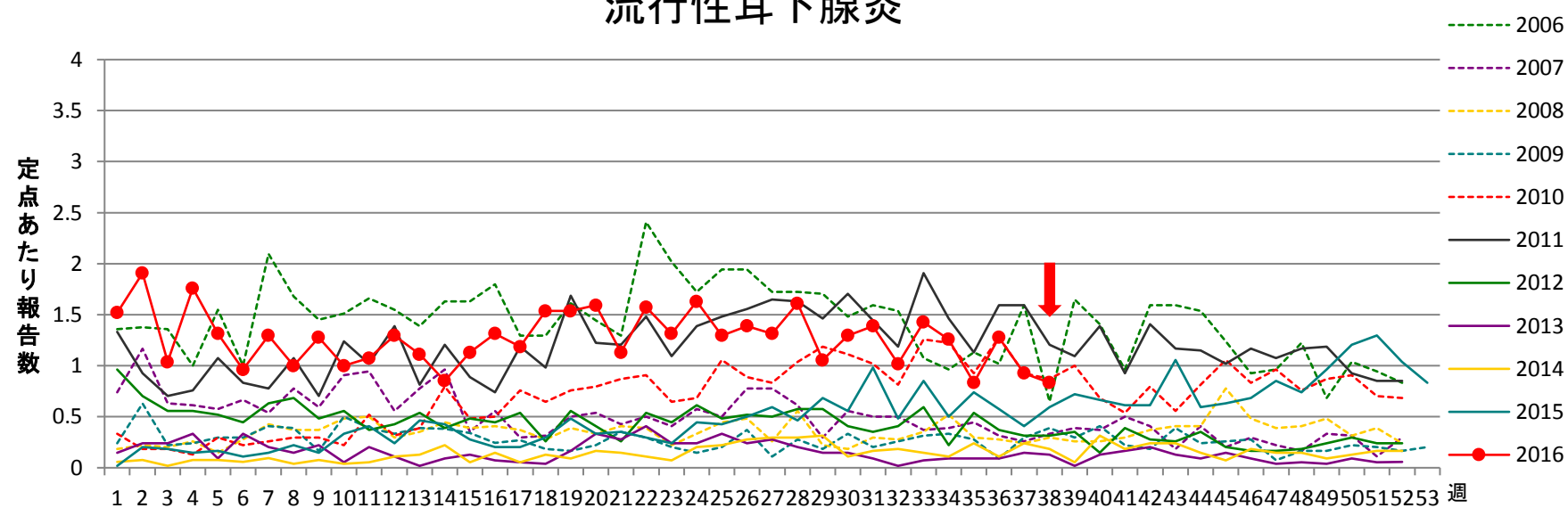
## 百日咳



## ヘルパンギーナ

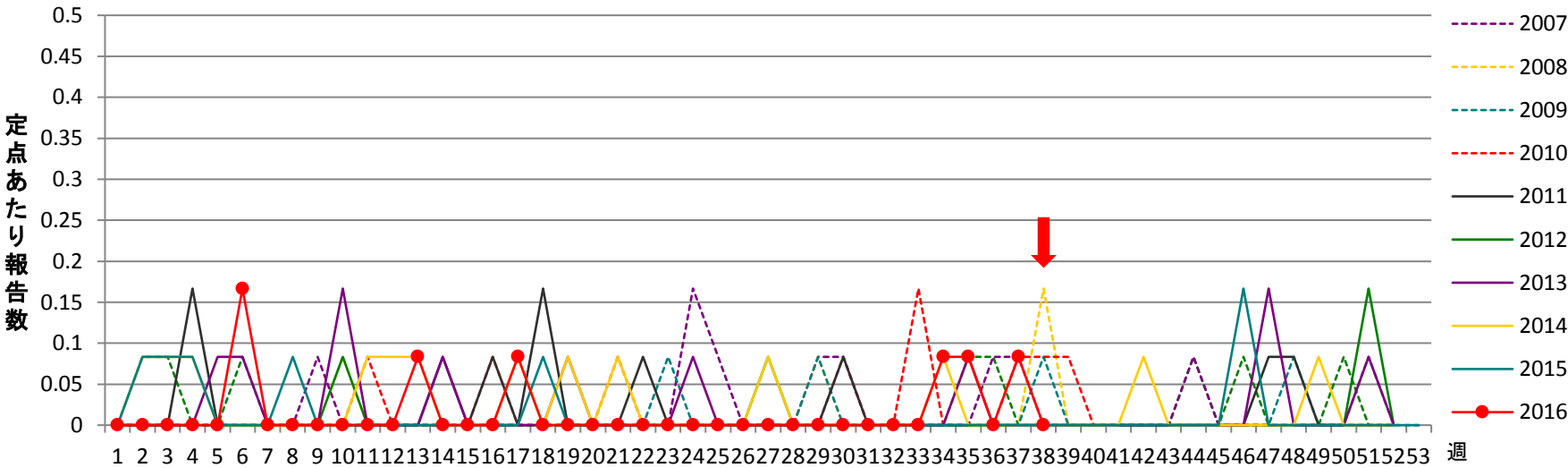


## 流行性耳下腺炎

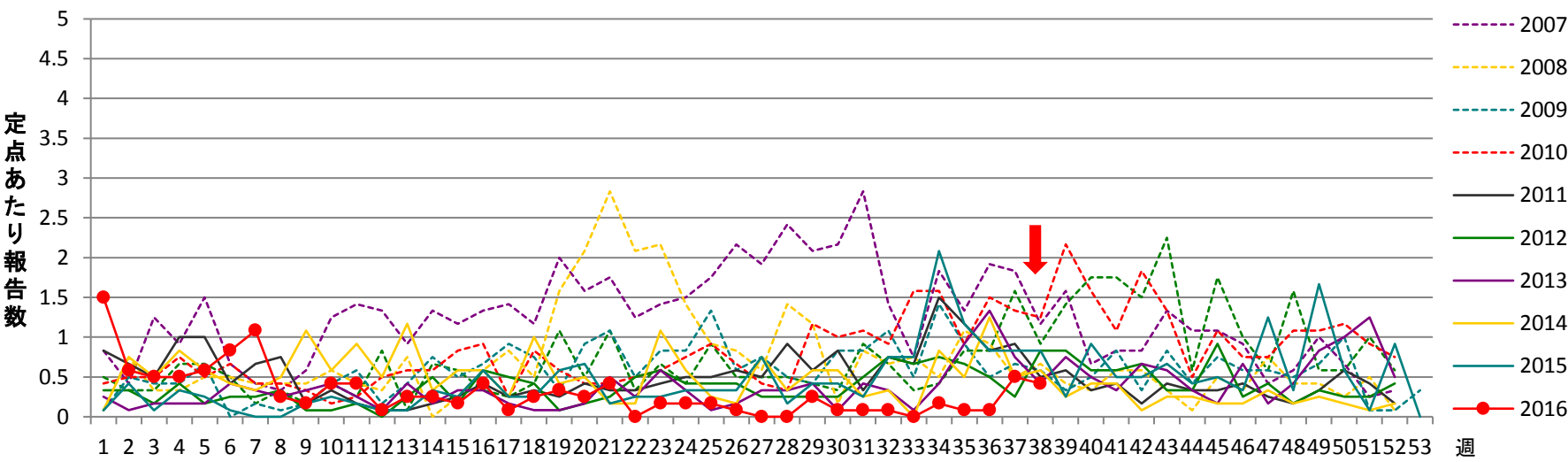




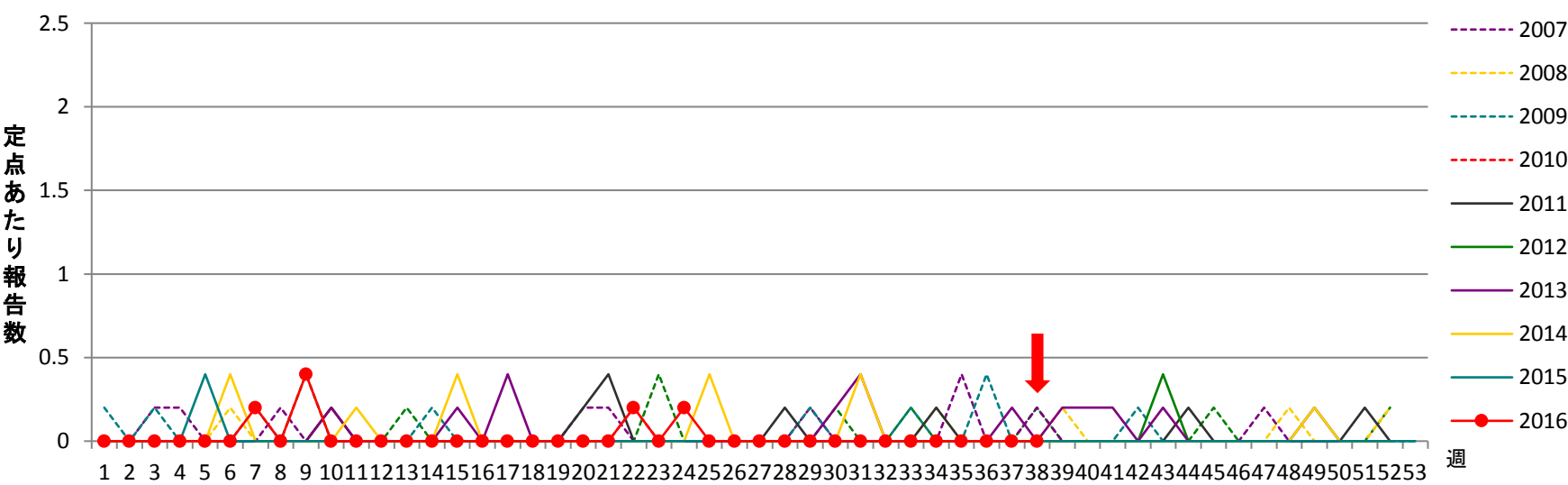
### 急性出血性結膜炎



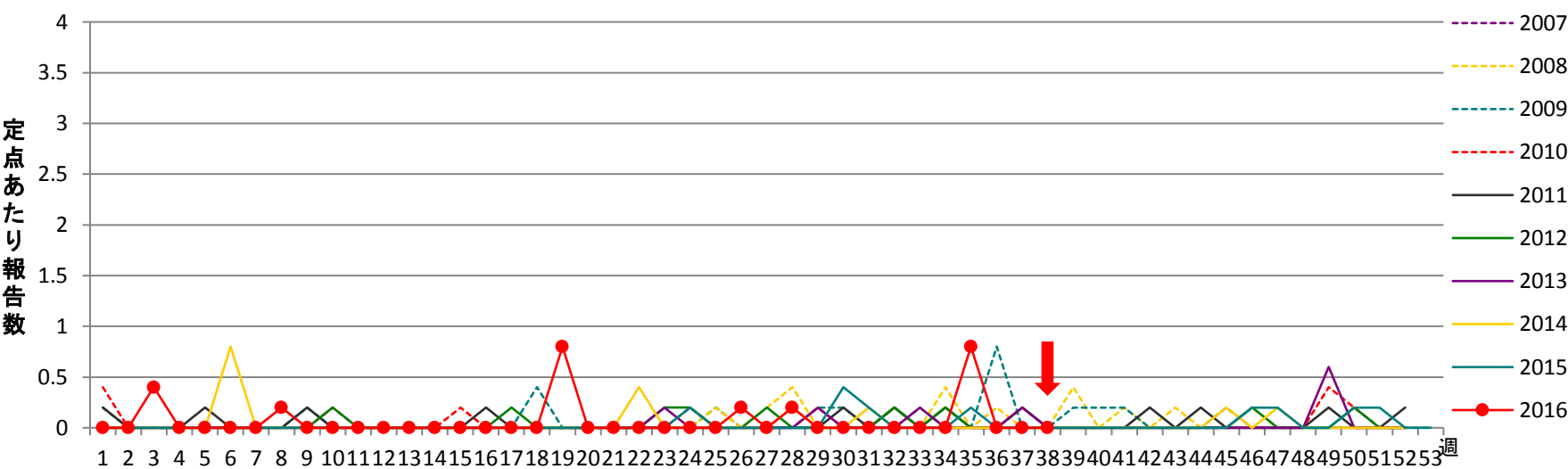
### 流行性角結膜炎



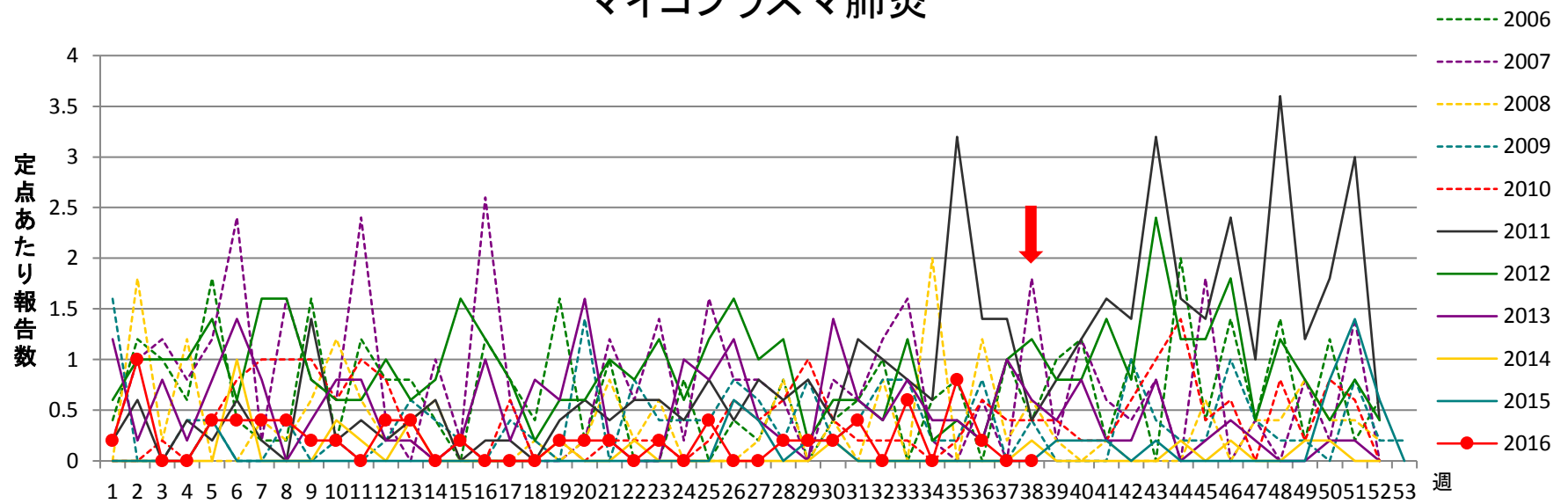
### 細菌性髄膜炎



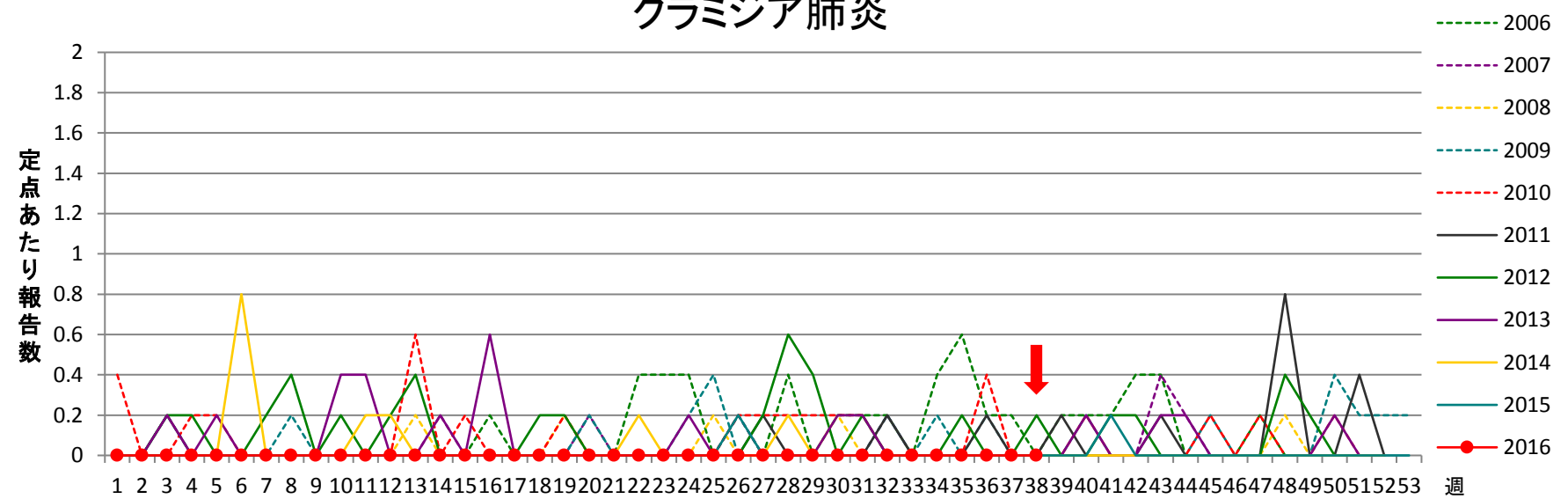
### 無菌性髄膜炎



## マイコプラズマ肺炎



## クラミジア肺炎



## 感染性胃腸炎(ロタウイルス)

